モ同様デ之レヲ防止シ、或ハ緩和スル事が出来ル。口粘膜ノ創傷、竝ビニ潰瘍性腐敗性過程ニ對シテ 0.6%ノ Protosil 液ヲ應用スルコトハ尙實驗中デアル。(丹野啓行)

保存療法科

「アルゼン」ヲ淺キ齒頸部窩洞ニ適用

セル際ノ齒間乳頭腐蝕ニ就テ

Das Verätzen der Papille nach
Legen von Arsenik in zervikal
hochgelegene Kavitäten

Von Dr. Clemens Altenkamp

Zahnärztl. Rundschau. 1936 Nr. 4

屢ク質問關テ淺イ齒頸部窩洞ニ於テ如何ニシテ齒齦縁ノ損傷ヲ豫防スルカ。又ソノ效果ヲ收ムル方法、及ビ齒髓ヲ確實ニ死滅セシムル藥劑、或ハ腐蝕ヲ完全ニ避ケ得ル被覆劑等ト云フ問題ヲ見ル。

一般ニ齒髓失活ノ主ナル失敗原因ハ手術者ガ行フ特別ナ方法デモナケレバ又被覆劑ニ依ルモノデモナクテ、ソレハ常ニ患者ニ疼痛ヲ與ヘル不適當ナ藥劑ニヨルノデアル。

更ニ又齒齦ノ損傷スル責任ハ藥劑デハナク、多クノ場合我々自身ニアルト云フ事ヲ強調シテ居ル。

次ノ2ツノ症例ガ之ヲヨク説明シテ居ル。

1) 拔髓ニ若シ檢定サレタ Causticin rotヲ用ヒタスルト、規則ニハ豫メ石炭酸中デ軟化シタ Causticinヲ開放出血セル齒髓上ニ24時間置ク様ニ書イテアルガ、カ、ル規則ハ大體チヨット眼ヲ通スダケダカラ、Causticinノ處置ニ當リ、此事ヲ忘レテ居ルカラ失敗スル。ソノ理ハ乾燥セル藥劑ノ場合ニハ24時間置クト云フ事が、藥劑カラ齒髓ニ、更ニ又ソノ逆ニ液ノ交換ガ行ナハレタメニ絶體ニ必要デアル、「Causticin rot」ノ小球ヲ出血セル齒髓上ニ乾燥狀態デ置クナラバ、殆ンド常ニソノ效果ガ遲滯スルダラウ。責任ハ全ク我々自身ニアル。

2) 拔髓ノ失敗責任ヲ藥劑ニ負ハス事デアル。即チ我々が「アルゼン」或ハ他ノ藥劑ヲモウ一度填メテヤリ直シタリ、或ハ簡單ノタメニ齒髓切斷法ヲ行フ場合等ノ失敗ハ藥劑ヨリハ寧ロ用ユル機械ヤ、ソノ操作法ヲ知ラナイ事ニ歸因スル。

擴大不充分ナ根管ヲ通シテハ決シテ拔髓出來ナイ。又數回使用シタ拔髓針デモ同様デアル。著者ノ意見デハ「アルゼン」ヲ靜ニ用ヒ、被覆劑トシテ、「フレッチャー」ヲ用ユルト「アルゼン」ニモ被覆劑ニモ失敗ハナイ。唯形ノ惡イ窩洞ニ填メルノハイケナイ。

形ノ惡イモノ或ハ不適當ナ窩洞デハ「三鹽化醋酸」ヤ「ヨードチンキ」或ハ「マトリツ」ヲ置イテ腐蝕スル事ヲ避ク可キデアル。

完全ニ腐蝕スルニ一定ノ充填量ヲ定メル事モ又腐蝕ノ原因トハナラナイ。我々ハ大體用ヒラレル藥劑ノ有效固有量ヲ知ツテキル。

磷酸「セメント」、「Antinekrosit」ヤ「Certoden」モ、或ハ又窩洞形成ノ惡イ際ニモ齒間乳頭ノ腐蝕ハ避ケラレナイダラウ。

ソノ原因ハ藥劑デハナク間違ツタ治療法即チ我々自身ノ責任デアル。故ニ失敗ノ際ニハ自分個有ノ處置ヲ正シク反省シテ見ル可キデアル。齒髓失活劑ヲ咬合頭ノ窩洞ニ入レルノハ餘リ困難デハナイ。蝕蝕ガ齒頸部即チ多クハ隣切面ニ起ルト齒牙ハ破壊セラレ、齒髓炎ノ疼痛ヲ起シ、爲ニ拔髓竝ニ根管治療が必要ニナル。ソノ際多クノ場合「バー」デソノ側壁上カラ斜メ下、隣接腔ノ齒頸部ノ方ヘ削リ始メル。

斯クシテ生ジタ橫抗中ニ「アルゼン」或ハ他ノ失活劑ヲ入レ都合ノヨイ場合ニハ「セメント」或ハ「フレッチャー」、不都合ノ時ハ「グッペルカ」ヲ閉鎖スル。

次ニ齒頸部ニ於テ琺瑯質陵柱ト象化質小管ノ走行ハ幾分傾斜シテ居ルガ、殆ンド水平デアル。故ニカ、ル所ヘ「アルゼン」ヲ置クト齒間乳頭ヲ腐蝕スル。

「アルセン」ハ象化質小管ヲ通り擴ガリ 齒間乳頭ヲ腐蝕セシメルノデアルガ、齒頸部ノ此ノ場所ハ防禦作用ヲスル所ノ珐瑯質ヲ缺イテ居ル。然ルニ「アルセン」或ハカ、ル強キ滲透力ヲ有スル薬剤ガ 齒齦縁下ニ置カレル爲ニ齒間乳頭竝ニ齒牙ヲ損傷スル。

故ニ隣接面腐蝕ニ置ク時ハ第1ニ蝕蝕ノ大キサト、廣サヲ知ルタメニ充分ナ視野ヲ作ラネバナラス。如何ナル場合デモ小空間ハ作り得ル。即チ此ノ際隣接面ノ齒牙ノ一部ヲ斜メニ落サネバナラス。斯クシテ生ジタ空洞ニハ、容易ニ少シノ危險モナク「アルセン」ヤ他ノ薬剤ヲ置ク事ガ出來、而モ、齒間乳頭ノ腐蝕ハ完全ニ除カル。

被覆劑トシテハ當然次ノ様ナ物ガ選バレル。即チ窩洞ヲ實際緊密ニ閉鎖スルモノデ最良ナモノハ「フレッチャー」デアルト思ハレテ居ル。

齒間乳頭ノ障礙モ又閉鎖劑ト 齒牙ヲ斜ニ切斷スル事ニヨリ全ク除カレタ。

我々ハ齒髓失活ニハ古來知ラレテ居ル方法以外ニハ何等必要デナイ。確實ニ奏效スル薬剤ガ報告サレルノヲ望ンダノハ一時的デアリ、被覆劑ニソノ責任ヲ移サウトシテ居ルノハ愚鈍デアル。要スルニ 齒牙トソノ周圍ノ組織學的構造ノ正シイ知識、齒髓失活劑ヲ充填スル窩洞ノ合理的形成及失活劑ヲ充填ト窩洞閉鎖ノ技術統治、或ハ確實ニ無痛ニ齒髓ヲ失活シ拔髓スル。之等ノ事ニ依リ好結果ヲ得ル。

(酒井信義)

補 綴 科

上顎總義齒ノ保持,「ワルター,ヴィルド」

Der Halt der oberen totalen Prothese:

Walter Wild, Zürich. Zeitschrift für

Stomatologie 1937 Heft 3

上顎總義齒ノ保持ハ患者ニトリテモ、齒科醫ニトリテモ日常緊喫ノ重大問題ナリ。著者ハ保持力ノ由ツテ來ル條件トシテ次ノ5項目

ヲ擧グ。1) 保持ニ好都合ナル顎型(Retention)。2) 床ト粘膜トノ吸著(Adhäsion)。3) 床ト粘膜トノ間ニ於ケル陰壓腔ノ存在。4) 唾液ノ量及粘稠度。5) 咀嚼壓。顎型 高ク廣ク、不動ノ齒槽突起乃至ヨク發育セル上顎結節ヲ有スル顎ハ最も有力ナル保持ノ原因ヲナス。顎型ハ人工的ニ補正スル事殆ンド不可能ナルガ故ニ 齒牙脫落後ノ時日乃至年齢ハ其ノ決定ニ重要ナル役割ヲ演ズ。即チ、齒牙脫落後數ヶ月乃至數年ヲ經過セバ不動性萎縮ノタメ顎ハ漸時保持型ヲ失フ。年齢ニハ老年者程不動性萎縮ト共ニ老人性萎縮ヲ伴フヲ以テ愈々著明ナル萎縮ヲ來シ、殊ニ20—30歳臺ニ於テ無齒トナレル場合ノ如キ、保持最も困難トナル。氣壓 顎型ニ次グ重要ナル條件ナリ。總義齒保持ニ氣壓ノ作用スルハ、床ト粘膜トノ間ニ陰壓腔ノ存在スルヲ前提トス。陰壓腔ノ發生ニハ、其ノ部ノ空氣ノ追ヒ出シ、竝ニ陰壓狀態ノ保持ヲ條件トス。前者ハ粘膜ヲ床トノ密著乃至床ノ壓迫ニヨリ行ハレ得ルモ、後者ハ常ニ必ズシモ容易ナラズ、硬ク、薄ク、移動性少キ粘膜ノ場合ノ如キハ困難ナリ。著者ハカ、ル場合、「グッターベルカ」或ハ軟「ゴム」ヲ用ヒテ良結果ヲ得ツ、アリ。尙商品トシテ Schwammgold Jurabit ノ如キモノアリ。此ノ場合尙全體の邊緣閉鎖ノ緊要ナルハ勿論ナリ。吸著 床ト粘膜トノ密接スル程吸著力ハ大トナル。但シ床ト粘膜トハ必ズシモ全面的ニ密接スルヲ要セズ、中心ニ腔隙ヲ有シ邊緣部ノミ密接セルモノ、(hohlziehende Prothese)ニ於テモヨク吸著ス。著者ハ多數ノ古キ適合不良ノ義齒ニ就キ、邊緣部ノミヲ修理スル事ニヨリ使用可能トナセル經驗ヲ有ス。唾液 床ト粘膜トノ間ニ存在スル空氣ノ追ヒ出シノ他、其ノ間隙ヲ埋メテ吸著作用ヲ強化セシム。粘稠度高キ唾液ハ有力ナル保持ノ條件ナリ。咀嚼壓 義齒顎型ニヨク適合セル場合有利ニ動クモ、不適合ノ場合ハ義齒脫落ノ最大原因トナルモノナリ。以上ニ對シ、義齒脫